

日本漢字能力検定 模擬問題

1級

第2回（平成28年1月31日作成）

〔構成〕

- ページ1 : 表紙(このページです)
- ページ2 : 問題用紙(おもて)
- ページ3 : 問題用紙(うら)

〔注意事項〕

1. 解答用紙及び模範解答は別紙です。
2. 問題用紙はA3サイズで印刷することをお勧めします。

〔その他〕

1. 当模擬問題の内容の全ての転載を認めます。
但し、PDFファイルをそのまま他のアップローダー等へ転載する行為はご遠慮下さい。
2. お気付きの点や不明な点がございましたら問題作成者までご連絡下さい。

漢検

第2回 日本漢字能力検定

模擬問題

1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙（答案用紙）に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1～20は音読み、21～30は訓読みである。

- 1 葱^ニの煎液を嗽薬に用いる。
- 2 珠^ル瓔^ユ炫^{セン}転^{テン}として星宿揺らぐ。
- 3 発破を掛けて岩石を砕^ク砕^クする。
- 4 爵を執りて酌^{シヤク}す。
- 5 久年の調^{テウ}舛^{セン}を匡正する。
- 6 指揮系統が継^{ケイ}續^{ゾク}している。
- 7 遠方からの旅客を訝^ギ訝^ギする。
- 8 伝わりて蚬^{セウ}蠣^キ瞑目となる。
- 9 心怍^{シヤク}怍^{シヤク}として諒直なり。
- 10 蛾子時にこれを術^{ジュツ}す。
- 11 猛犬の吠^{ヘイ}牙^ガが聞こえる。
- 12 痲^マ癩^ラで腕が上^ウがらない。
- 13 怒号が汎^{ハン}漣^{リン}の如く響き渡る。
- 14 伝統的な焼^{ヤク}畚^ヒを継承する。
- 15 蒹^{ケン}藁^{ガウ}とは金魚藻のことである。
- 16 耆^シ是^シにみな修身を以て本を為す。
- 17 大いに飲んで嘔^ウす。
- 18 浴^{ヨク}沂^イの樂を人生訓としている。
- 19 狩獵民族が熊^{クマ}臠^ラを食べる。
- 20 弾丸が霰^{セン}霰^{セン}の如く降り注ぐ。

1×30

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(30)

- 1 路上でタンカ売りが行われている。
- 2 シュロチクを玄關で栽培している。
- 3 猛虎がタケリ立っている。
- 4 クテは水捌けが悪く湛水しやすい。
- 5 友のオウセンを祝う。
- 6 親の愛情にカツてる。
- 7 喧嘩のトバツチりを食らった。
- 8 ハンダゴテで接合部分を加熱する。
- 9 少しズツ歩けるようになる。
- 10 酒の飲み過ぎでエズく。
- 11 ホウガの馬を英雄に譬える。
- 12 里山のホウガ林の保全に努める。
- 13 ホウガ帳を回す。
- 14 白装束でコリを取る。
- 15 綿花三コリを輸入する。

2×15

(三) 次の傍線部分のカタカナを国字で記せ。(10)

2×5

- 1 ヌカミノが腐る。
- 2 洗った反物をシンシ張りで乾かす。
- 3 一フイートは約三十糎である。
- 4 ハヤの呼称は動きが速いことに由来する。
- 5 日本のシポリゾめの歴史を学ぶ。

(四) 次の1～5の意味を的確に表す語を、(10)
次の□から選び、漢字で記せ。
2×5

- 1 口の短い獵犬。
- 2 不潔であるさま。また、無礼なさま。
- 3 外国語の意味が分からないさま。
- 4 欲深い人の人相。
- 5 いんちき。でたらめ。

おわい・かつかんぱく・かつきょう
しこう・しゅじゅ・しゅり
ちよぼいち・びろう

(五) 次の四字熟語について、問1と問2に(30)
答えよ。

問1

次の四字熟語の(1～10)に入る適切(20)
な語を左の□から選び漢字二字で
記せ。
2×10

ア (1) 玄酒	カ 浩浩 (6)
イ (2) 文章	キ 瓶墜 (7)
ウ (3) 長目	ク 搔首 (8)
エ (4) 大樹	ケ 刻鵠 (9)
オ (5) 庸材	コ 筆門 (10)

けいとう・しょうしょう・しんせつ
そうさい・たいこう・ちよれき
ふうい・ふふつ・ほうせつ
るいぼう

問2

次の11～15の解説・意味にあてはまる(10)
ものを問1のア～コの四字熟語から
一つ選び、記号(ア～コ)で記せ。
2×5

- 11 謙虚で慕われるような人格。
- 12 男女が離れて二度と会い得ない。
- 13 面白味のない文章。
- 14 貧しい家のこと。
- 15 役に立たない人やもの。

氏名	日付
	年 月 日
得点	
点	

1 級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認して下さい。

(六) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

(10)

1×10

- | | |
|-------|---------|
| 1 日照雨 | 6 十大功劳 |
| 2 鼠尾草 | 7 天青地白 |
| 3 蒜薹蘆 | 8 海州常山 |
| 4 左義長 | 9 南五味子 |
| 5 猷歳菊 | 10 盟神探湯 |

(八) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

(20)

2×10

対義語

類義語

- | | |
|------|--------|
| 1 愛日 | 6 十能 |
| 2 撰受 | 7 乞食 |
| 3 臨書 | 8 香奩 |
| 4 弄瓦 | 9 有漏路 |
| 5 散華 | 10 蓮台野 |

(七) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがない)

(10)

1×10

注意して) ひらがなで記せ。

〈例〉健勝 --- 勝れる ↓

けんしょう
すぐ

- | | |
|--------|--------|
| ア 1 吁嗟 | 2 吁く |
| イ 3 眩沢 | 4 眩む |
| ウ 5 聊啾 | 6 聊り |
| エ 7 干撒 | 8 撒り |
| オ 9 淤闕 | 10 淤がる |

- | |
|----------------|
| いじつ・かしよう・じうん |
| しやくぶく・しやば・せんぜん |
| ふぎ・らんとうば・ろうしよう |
| るさい |

- | |
|---------------------------------------|
| 1 イモガラは食えるが家柄は食えぬ。 |
| 2 ホンイクの勇。 |
| 3 天機セツロウすべからず。 |
| 4 サライの食。 |
| 5 ラウ仕替えも職の中。 |
| 6 チヨウライ昂じて尼になる。 |
| 7 蓬、麻中に生ず、カンボクを勞せず。 |
| 8 黄絹幼婦、外孫セイキウ。 |
| 9 草木纒かに零落すれば、便ちボウエイを根柢に露わす。 |
| 10 柳下恵は飴を見て老人を養う物とし、トウセキは錠を開くるに良き物とす。 |

(十) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30)

2×10
1×10

A 当時に有名の番匠川越の源太が受負ひて作りなしたる谷中感応寺の、何処に一つ批点を打つべきところあらうはずなく、五畳敷格天井の本堂、橋をあざむく長き廻廊、幾部かの客殿、大和尚が居室、茶室、学徒所化の居るべきところ、**クリ**浴室、玄闕まで、或は**ソウゴン**を尽し或は**ケンゴ**を極め、或は清らかに或は寂さびて各々その宜しきに適ひ、結構少しも申し分なし。そもそも微々たる旧基を振ひてかほどの大寺を成せるは誰ぞ。法諱を聞けばその頃の三歳児も合掌礼拝すべきほど世に知られたる宇陀の朗円上人とて、早くより身延の山に**ケイセツ**の苦学を積まれ、中ごろ六十余州に**ウンスイ**の修行をかさね、毘婆舍那の三行に寂静の慧剣を礪ぎ、四種の悉檀に济度の法音を響かせられたる七十有余の老和尚、骨は俗界の葷羶を避くるによつて鶴の如くに痩せ、眼は人世の**ブンウン**に厭きて半睡れるが如く、固より壞空の理を諦して意欲の火炎を胸に揚げらるることもなく、**ネハン**の真を会して執着の彩色に心を染まされることも無ければ、堂塔を興し伽藍を立てんと望まれしにもあらざれど、徳を慕ひ風を仰いで寄り来る学徒のいと多くて、それらのものが雨露凌がんに便宜も旧のままにては無くなりしまま、なほ少し堂の広くもあれかしなど独語かれしが根となりて、道德高き上人の新に規模を大うして寺を建てんといひたまふぞと、この事八方に伝播まれば、中には徒弟の伶俐なるが自ら奮つて四方に馳せ感応寺**コンリクウ**に寄附を勧めて行くもあり、働き顔に上人の高徳を演べ説き聞かし富豪を懲懾めて**キンヤ**せしむる信徒もあり、さなきだに平素より随喜渴仰の思ひを運べるもの**ウンカ**の如きにこの勢をもつてしたれば、上諸侯より下町人まで先を争ひ財を投じて、我一番に福田へ種子を投じて後の世を安楽くせんと、富者は黄金白銀を貧者は百銅二百銅を分に応じて寄進せしにぞ、百川海に入ることく瞬く間に金銭の驚かるほど集りけるが、それより世才に長たけたるものの世話人となり用人なり、万事万端執り行ふてやがて立派に成就しけるとは、聞いてさへ小気味のよき話なり。

A

(幸田露伴「五重塔」より)